

ホット・ファズ —俺たちスーパーポリスメン!—

2008(平成20)年6月11日鑑賞(GAGA 試写室)

★★★



監督・脚本=エドガー・ライト/脚本=サイモン・ペッグ/出演=サイモン・ペッグ/ニック・フロスト/ジム・ブロードベント/マーティン・フリーマン/ティモシー・ダルトン/スティーブ・クーガン/ビル・ナイ/レイフ・スポール/パディ・コンシダイン (ギャガ・コミュニケーションズ配給/2007年イギリス映画/120分)

……紳士の国イギリスでもこんなおバカ映画が大ヒット！ 超エリート警官は目障り、とばかりにイギリス—安全な村に左遷！ ところが、その村の正体は……？ そこで巻き起こす大事件は……？ 日本での上映が実現できたのは、熱い署名活動とギャガの決断力！ 注目は、終盤30分のド派手でおバカな銃撃戦。さあ、村の大改革は……？

話題 その1 —本場イギリスで大ヒット！

私はこれまで全然知らなかったし、今でも全然知らないが、エドガー・ライト監督とサイモン・ペッグがコンビを組んだイギリスのゾンビ映画、パロディ映画である『ショーン・オブ・ザ・デッド』(04年)は大ヒットし、世界中で4000万ポンド(約84億円)以上の収益をあげたとのこと。またこの映画については、B級映画が大好きなアメリカのクエンティン・タランティーノ監督が「何年経っても、最高傑作！」と大絶賛し、ゾンビ映画の巨匠ジョージ・A・ロメロは「完全無欠の面白さ！」と絶賛したらしい。

そんなエドガー・ライト監督とサイモン・ペッグのコンビが2作目として選んだのは、『バッドボーイズ2バッド』(03年)など、ハリウッドで数多いポリスアクション映画のパロディ映画である『ホット・ファズ—俺たちスーパーポリスメン!—』。「ファズ=Fuzz」とは「警官・デカ」のことだ。本場イギリスでは3週連続No.1(公開3日間で約12億円)を記録したが、もちろん日本にはそんな情報は未到達……。

話題 その2——これぞギャガの心意気！

映画の制作には、企画立案、脚本、撮影、ポストプロダクションなどたくさんの過程がある。また、製作された映画は、配給、宣伝、興行という過程を経て観客の目に触れることになる。かつての日本では、製作、配給、興行を映画会社が一貫して行っていたが、今では分業化が進み、配給会社の業務は、大きく分けると買い付け、劇場ブッキング、宣伝の3つ。以上が私が映画検定の勉強で学んだ知識（『映画検定 公式テキストブック』166～174頁参照）。

他方、「まちづくりへの住民参加」とならんで近時顕著なのが、面白い映画上映のための観客参加……？ つまり、日本の劇場では公開されない予定の作品について映画ファンが上映を求める署名活動を展開することによって、配給会社を動かして上映に至らせるという新たな動きだ。そんな手法によって公開が実現したのがアフリカ映画の名作『ホテル・ルワンダ』（04年）らしい。また、そんな署名に応じて2007年12月にギャガ・コミュニケーションズが劇場公開させたのがスポーツおバカ映画の『俺たちフィギュアスケーター』。

『ホット・ファズー俺たちスーパーポリスメン！』も「映画『Hot Fuzz』の劇場公開を求める会」による熱烈な署名運動を受けて劇場公開が決定したのだが、今回もそれを実行したのがギャガ・コミュニケーションズというから、ギャガ・コミュニケーションズの心意気に感心！

ネットを調べてみると、そんな面白い情報がたくさんあるから、大いに勉強に。

スーパー警察官の居場所は？

文武両道を備えたエリート刑事のことを英語でどう表現するのか知らないが、ロンドンの首都警察に配属されたばかりのニコラス・エンジェル巡査（サイモン・ベッグ）は、文武両道を兼ね備えているばかりか「現場力」も抜群で、検挙率から特別表彰の数まで何ゴトも断トツのエリート警察官。そんな人材は組織では貴重、と思うのは一面的！ あまりにもキレすぎる奴は組織の中ではむしろ妬まれ、邪魔者扱いされる方が多いもの。

ロンドン警視庁巡査部長（マーティン・フリーマン）、警部補（スティーブ・クーガン）、警部（ビル・ナイ）から順番にサンドフォード村への左遷を言い渡されたう

え、「それは不当だ！」と仲間たちに訴えようとしたのに、仲間たちも左遷に大賛成ときたからエンジェルはショック。エンジェルが赴任したサンドフォードは、犯罪が全くなく、イギリス一安全で、何度もビレッジ・オブ・ザ・イヤー（イギリス国内最優秀の村）を受賞している田舎村だが、そんな村にエンジェルの居場所はあるの……？

「事件」はゼロ、しかし「事故」は次々と……

エンジェルが赴任したサンドフォード村は、殺人「事件」には全く無縁。しかし、奇妙なことに、あの人、この人が次々と「事故」によって無惨な死を遂げていくことに。エンジェルの見立てではそれらは明らかに殺人事件だが、地元サンドフォード警察署長フランク・バターマン（ジム・ブロードベント）や地元スーパーマーケット経営者サイモン・スキナー（ティモシー・ダルトン）ら有力者たちは至って無頓着。

赴任早々、パブで飲酒している大勢の若者たちや飲酒運転の犯人を逮捕したりとエンジェルは孤軍奮闘。しかし、フランクの息子でエンジェルの相棒に指名されたダニー（ニック・フロスト）をはじめアンディ・カートライト（レイフ・スポール）、アンディ・ウェインライト（パディ・コンシダイン）兄弟たち周りの警察官は、そんなエンジェルの張り切りぶりを冷やかな目で。

さて、この村はホントに平和でのどかなの……？ それとも……？ それがこの映画の序盤と中盤（約1時間30分）の大きなテーマ。ちなみに、エンジェルと同じように優秀で仕事熱心な前任者がいたらしいが、彼は今一体どこで、何を……？

終盤30分は、がぜん大きく転調！

交響曲は4楽章、ピアノ協奏曲やバイオリン協奏曲は3楽章と形式が決まっているが、それはバランス上そのスタイルがベストと考えられているため。歌謡曲だって昔は1番から3番まで同じメロディで歌詞だけ変えていたが、五輪真弓の『少女』によってニューミュージックが生まれてくる（？）と、サビを中心とした曲づくりに変わっていった。すると、映画だって序盤、中盤、終盤のつくり方を変え、転調させてみれば面白いのでは……？

エドガー・ライト監督がそう考えたかどうか知らないが、この映画の終盤30分はがぜん大きく転調！ つまり、徹底的に痛めつけられ、傷心のままサンドフォード村を



© 2006 Universal Pictures International. ALL RIGHTS RESERVED.

去っていったエンジェルが、再び白い馬にまたがり、全身にマシンガンをもとってサンドフォード村にやってくるわけだ。彼の目的はただ1つ。政・官・財のトライアングル、というよりこの映画の場合は警察・宗教・企業のトライアングルによって村人を監視し、村民全体を催眠状況下に置いていたサンドフォード村の旧態然としたシステムの破壊だ！ そのために、アホほどの銃弾が飛び交い多くの死傷者が出たら大変だが、そこはおバカ映画、ギャグ映画に徹すれば大丈夫！

そうエドガー・ライト監督が考えたかどうかも知らないが、終盤30分のハードアクションと銃撃戦のすばらしさはハンパじゃない。きっとタランティーノ監督はこういうのが好きなのだろう……。エンジェルの相棒となって大活躍し、結果として父親に楯ついたダニーの死亡(?)は残念だが、エンジェルの大活躍によってサンドフォード村の大改革は万々歳……。？

2008(平成20)年6月12日記